

令和7年度 関西広域応援訓練（図上・実動）の実施結果について

令和7年1月21日
広域防災局

1 訓練目的

「関西広域応援・受援実施要綱」、「緊急物資円滑供給システム」、「基幹的物資拠点（0（ゼロ）次物資拠点）運用マニュアル」（以下、「0次物資拠点運用マニュアル」）による物資の広域調整・搬送に関する理解を深めるとともに、基幹的物資拠点（0次物資拠点）（以下、「0次物資拠点」）の開設から運営までの対応手順の確認や、物流事業者の専門知識を習得することで、災害対応能力向上と関係機関との連携強化を図る。また、0次物資拠点の開設・運用において初めて民間物流施設を活用して訓練を実施した。

2 訓練想定

南海トラフ地震により和歌山県・徳島県を中心に関西圏域に被害が発生。和歌山県の1次物資拠点及び民間物資輸送拠点が一時的に使用不能となり、要請を受けて0次物資拠点を三木総合防災公園に開設。2ヶ月が経過し、多様化する物資ニーズへの対応のため、民間物流拠点に拠点を移設。

3 訓練内容

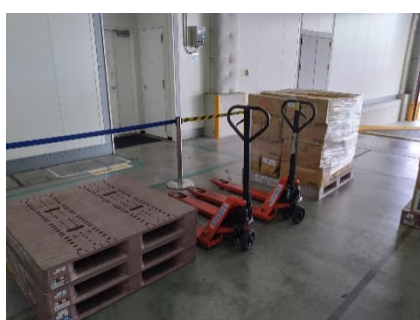
区 分	図上訓練	実動訓練
日 時	11/13（木） 13:00～17:00	
形 式	対面	
会 場	（株）関西丸和ロジスティクス AZ-COM Logistics Kyoto	
内 容	<ul style="list-style-type: none">・ 訓練概要説明・ 0次物資拠点の開設・運営手順確認・ 0次物資拠点（民間施設）の開設に係る課題の確認	<ul style="list-style-type: none">・ 訓練概要説明・ 0次物資拠点開設、運営訓練・ 開設、物資搬入訓練・ 物流事業者による「倉庫内作業の注意点」等の実演講義
	・ 有識者からの講評	
参加機関	36団体・59人	

<訓練活動風景>

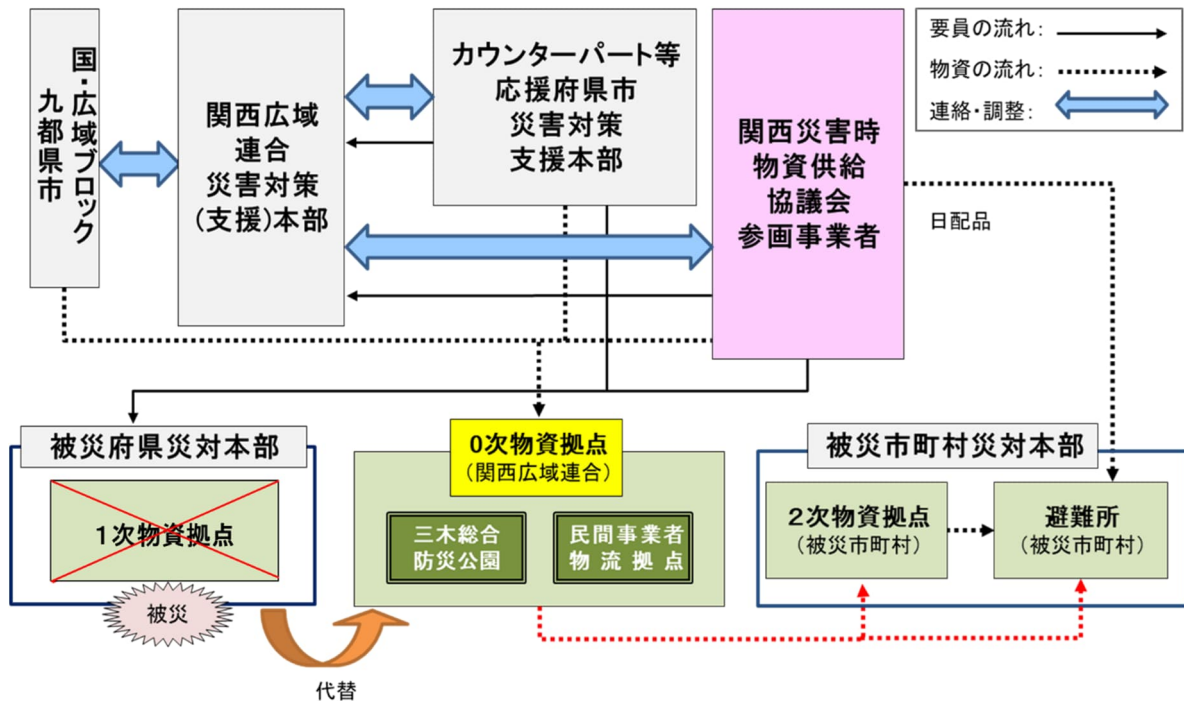
○図上訓練



○実動訓練



＜訓練内容イメージ図＞



4 訓練結果・意見

(1) 図上訓練

- ・行政だけでなく、物流事業者、協定事業者の方々と議論できたことが大変貴重な機会で、気付かない視点の話が聞けてよかった。
- ・官民それぞれの課題を出し合うことで相互の理解が深まったと思う。
- ・実際にシステムを使った訓練を実施して、利用方法の確認等を行う場があればより良いと思った。
- ・各班で出た課題が各班共通なのか特有のものなのか、整理した情報は価値があると思う。
- ・訓練の時間が少し短く感じた。

(2) 実動訓練

- ・行政の職員が実働訓練でラップ、ハンドリフト体験をされる訓練は大変よかった。
- ・物資輸送だけでなく調達のフェイズについても実働訓練を検討してはどうか。
- ・物流の心得の有無で、安全面で気をつける内容が異なると思うので、拠点ごとの安全対策についてのマニュアルや手順書が必要と感じた。
- ・民間の大規模な倉庫を見学できた点は有意義だった。
- ・各府県の1次拠点等はこれまでの訓練施設のような大きな施設、設備は備わっていない。そのような拠点では課題も多いので、その検討を訓練で実施してはどうか。
- ・トラックの台数や物量をもう少し増やして行くと、よりイメージが湧きやすくなると思う。

【参考】

＜参加機関一覧＞

訓練参加機関（36 団体・59 人）	
関西広域連合構成団体・連携県（11 団体・19 人）	
	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、鳥取県、徳島県、大阪市、神戸市、三重県、福井県
関西災害時物資供給協議会参画団体・事業者（20 団体・26 人）	
	佐川急便(株)、日本通運(株)、ヤマト運輸(株)、(一社)滋賀県トラック協会、(一社)京都府トラック協会、(一社)兵庫県トラック協会、(一社)徳島県トラック協会、(一社)AZ-COM ネットワーク、(株) 関西丸和ロジスティクス、京都倉庫協会、大阪倉庫協会、奈良県倉庫協会、イオンリテール(株)、NPO 法人コメリ災害対策センター、(株)ローソン、大阪いずみ市民生活協同組合、わかやま市民生活協同組合、ダイドードリンコ(株)、(株)ハマネツ、山崎製パン(株)
広域ブロック（2 団体・6 人）	
	九都県市、中国地方知事会
国機関（3 団体・8 人）	
	近畿運輸局、神戸運輸監理部、国土交通省